

# ながさき<sup>かんきょうと し せんげん</sup>環境都市宣言

～人と自然と文化が<sup>かがや</sup>輝き続けるまち長崎～

私たちのまち長崎市は、海や山がおりなす豊かな自然によって<sup>はぐく</sup>生まれ、<sup>きふく</sup>起伏に富んだ<sup>とくちよう</sup>地形は特徴的な<sup>しゃめんしかいち</sup>斜面市街地を形成しています。また、長崎港を中心とした諸外国との交流の中から、多様な文化や伝統を生み出した歴史あるまちです。

この、世界に誇れるかけがえのない長崎のまちをまもり育て、市民が将来にわたって健康でこころ豊かに暮らせるように、きれいな空気と水、豊かな生きもの、そして<sup>きちようれきし いさん</sup>貴重な歴史遺産を大切に引き継いでいくのは、私たちの責任です。

私たち長崎市民は、共に考え、行動し、「環境を大切にするまち」をつくることを宣言します。

- 1 私たちは、ペーロンのはしる光きらめく海、八夕の<sup>ま</sup>舞うさわやかな風を感じ、おいしい空気と水をたのしめるまちをつくります。
- 1 私たちは、小鳥のさえずりで<sup>めざ</sup>目覚め、<sup>が</sup>ホテル狩りができるような豊かな自然を求め、多くの生きものと共に<sup>す</sup>住める<sup>せいろう</sup>清流と緑豊かなまちをつくります。
- 1 私たちは、出島をはじめとする輝かしい歴史と文化遺産<sup>いさん</sup>をまもり<sup>い</sup>活かし、文化のかおり高いまちをつくります。
- 1 私たちは、みんなの<sup>ちえ</sup>知恵と<sup>くふう</sup>工夫で、太陽からもらったエネルギーと限りある地球資源を大切にし、ごみのない美しいまちをつくります。
- 1 私たちは、<sup>げんしぼくだん</sup>原子爆弾を受けながらも生きぬいた<sup>ひぼく</sup>被爆クスノキのように、自然と平和の大切さを将来へ引き継ぎ、地球環境保全に<sup>こうけん</sup>貢献できるまちをつくります。

平成13年(2001年)12月3日

長 崎 市

# 「ながさき環境都市宣言文」の解説

この宣言文は、平成13年12月に長崎市が表明したもので、行政、市民、事業者が一体となって、環境にやさしいまちを作っていくことを市の内外に示しました。

## 1. 前文について

前文については、1段落目に、長崎市環境基本条例の前文を参考とし、長崎市の自然的社会的環境特性を述べ、2段落目に、環境の保全と創造に関して、将来の世代に対する私たちの責任を述べ、3段落目に長崎市が「環境を大切にすまち」をつくることの決意を表しています。

## 2. 箇条書きの文(項目文)について

項目数を5項目とし、長崎市環境基本計画に定める基本目標に沿って「循環」・「共生」・「参加」・「国際的取組」の要素をそれぞれの項目に含ませています。

多くの起草委員から長崎らしさを盛り込んだ宣言文にしたいということと、他都市に見られるような堅い宣言文にするのではなく、子供にもわかりやすく親しみやすい文章にしたいという意見が出されました。

そのため、項目文については、長崎のまちがイメージできるようなペーロン、ハタ、出島などの長崎を代表する風物などを取り入れ、なるべくやさしい言葉を用いて作成しています。

1項目目は、きれいな水と空気の健全な循環を表しています。

空気を吸ったり、水を飲んだりした時に、おいしいと感じるぐらい汚染されていないきれいな空気や水を感じるようなまちにしたいという意味合いを込めています。

2項目目は、恵み豊かな自然と人が継続的に共生していく姿を表しています。

「ホテル狩り」という言葉を使うことに対しては異論もあり、「ホテルが飛び交うような」とした方がいいなどの意見がありました。しかし、最終的には、視覚的なものだけではなく、ホテルとの触れ合い、つまり自然との触れ合いの意味合いも込めたいということと、むかしは使われていたが、現在、失われつつあるような言葉を復活させたいという思いからあえて、「ホテル狩り」を入れました。

3項目目は、世界に誇れる長崎特有の環境である長崎の歴史・文化との共生を表しています。長崎の歴史・文化というのは、長崎にとって重要な環境であり、将来に引き継いでいかなければならないものであるとの意見から、新たに付け加えられた項目です。

4項目目は、市・市民・事業者が自主的、積極的な参加により、環境にやさしいまちづくりに取り組む姿を表しています。

「ごみのない美しいまちをつくります。」というのは、単なるまちの美観ではなく、資源を大切に、ゴミを出さないというゼロエミッションの考えを示しています。

5項目目は、戦争は、最大の環境破壊であるという認識から、国際平和文化都市長崎として、世界平和の推進による地球環境保全への貢献を表しています。

被爆クスノキが戦争の時代の生き証人として、今の時代に引き継いできたように、長崎市も自然と平和の尊さを将来へ引き継ぎ、世界へ発信し続けていくことが地球環境保全につながっていくことを強調しています。

3項目目と5項目目は、他都市の宣言文にはない長崎特有のものです。